

# アマメハギの産卵行列における最適戦略

## Optical strategy on spawning parade in Filefish *Rudarius ercodes*

塚本 龍治 (大阪大学大学院理学研究科)

Ryuji Tsukamoto (Department of Mathematics, Osaka Univ)

アマメハギは南日本海沿岸に多数生息する、成魚でも体長3～6 cmほどにしかない小型のカワハギ科魚類である。

雄は繁殖期には婚姻色を呈する。婚姻色は、その雄固有のものではなく、体調や環境によって変わりうるものであり、互いの婚姻色が雄間競争の判断材料として機能している。

雌は、産卵の前あたりの雄を集め、引き連れて練り歩き、先頭にたった複数の雄を自分の両側に並べて産卵する、産卵行列という手段で配偶者選択を行う。

本研究では、アマメハギの産卵行列のモデルをつくり、雌が産卵するタイミングの最適戦略がどうなるかシミュレーションを行って調べた。

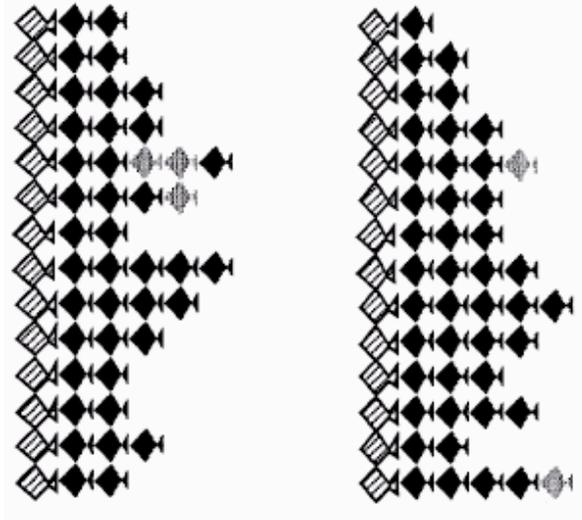


図 産卵行列の時間変化